

プロジェクトファクトシート

オムカレシュワール多目的プロジェクト

～ 深刻な環境・社会影響をもたらすインド・ナルマダ川のダム構想～

プロジェクトの概要: (1) 520MW 水力発電ダム (第1フェーズ)、(2) 約 147,000 ヘクタールの灌漑および運河設備 (第2フェーズ) の建設。インド中部に位置するマディア・プラデッシュ州の西域にあるオムカレシュワール町 (ヒンズー教の 12 ジョーティリンガム寺院のひとつが位置する観光地) から約 1km 上流に位置する。

主な事業実施者: ナルマダ水力開発公社 (NHDC) (インドの国家水力発電公社 (NHPC) およびマディア・プラデッシュ州政府の合弁会社)。

財源: プロジェクト総コスト見積もりは、約 200 億ルピー (約 3 億 9600 万米ドル)。このうちの約 60% (約 2.5 億米ドル) は海外からの融資を予定しており、これら銀行からの融資を保証するため、日本貿易保険 (NEXI) への要請が検討されていると伝えられている。水力発電ダム建設への機材提供企業として、ボイス・シーメンス・ジャイプラカッシュ・コンソーシアム (世界の水力発電機器の 3 分の1を取り付けてきたドイツ系のボイス・シーメンス・ハイドロ・ジェネレーションのインド現地法人であるボイス・シーメンスと、インドのジャイプラカッシュ・インダストリーズ Ltd. の合弁会社) が関与。

これまでの動き:

- 2003 年 8 月 プロジェクト実施に向けた第1の立ち退き (パンティヤジ村) 実施。
- 2003 年 8 月 インド・バジパイ首相が出席して、プロジェクトの着工式が開催。
- 2004 年 4 月 多国間投資保証機関 (MIGA) が環境社会面での懸念から融資を行わないことを表明。
- 2004 年 4 月 ドイツ銀行 (Deutsche Bank) が融資を行わないことを表明。
- (2007 年 プロジェクト完成予定。)

プロジェクトによる環境・社会への被害: プロジェクト地では肥沃な農地が存在し先住民族も暮らしているが、約 30 の村々の約 3,000 世帯 (推定 50,000 人) 以上が立ち退きを要求される。しかし、住民へのプロジェクトに関する事前の十分な説明は行われていない。また、プロジェクト実施に際する環境影響評価 (EIA) および住民移転計画が作成されていない。これにもかかわらず既に脅迫的な立ち退きが行われた村もあり、住民は土地などの十分な補償を受けていない。この地域には、豊かな森林が存在するほか、ヒンズー教・シバ神の 12 の神聖なジョーティリンガムのひとつであるオムカレシュワール寺院が存在し、プロジェクトによる地域の自然・文化への影響も強く懸念される。(詳しくは、"The Omkareshwar Dam in India: Closing Doors on Peoples Future" 参照)

<パンティヤジ村での砂防ダム工事>



「環境・持続社会」研究センター
**Japan Center for a Sustainable
 Environment and Society**

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-2-32

興和広尾ビル 2 階

Tel: +81-3/3447-9585/9515 Fax: +81-3/3447-9383

E-mail: jacsces@jacsces.org URL: www.jacsces.org